

"しんじ"を信じる 京都府議会議員 第6号 編集・発行 ニノ湯しんじ事務所

# ニノ湯しんじ通信

〒616-8167 京都市右京区太秦多藪町44-1  
TEL: 075-862-1355 FAX: 075-862-1350  
✉ ninoyushinji@palette.plala.or.jp

～今こそ、伝統が未来を拓く!～

8月の衆議院選挙で自民党は大敗し、下野しました。麻生総理の失言、保身ばかりの党内抗争、政権交代を煽るマスコミ報道もありましたが、国民が抱く得も言われぬ不安に明確な解決策を示せず、「変えたい」という強い思いを持った多くの国民が民主党に投票したというのが、自民党敗北の本質だと思います。

自民党は、冷戦が厳しさを増す昭和30年、我が国の悠久の歴史に育まれた生活・文化を守る「保守」の立場で、それらを破壊する共産主義と対決し、実質的な植民地支配に終わりを告げる自主憲法の制定を目指して、結党されました。その原点が明確なら、家族・地域社会を基礎とした安心と居場所がある伝統的な暮らしを守り、その決意を示す憲法の制定を目指せばいいのです。しかし、自民党は、政権与党として目先の課題の解決のみに終始し、時代の変化の中で失われ行くそれら大切なものを守りきれなかったのではないのでしょうか。

さて、民主党の鳩山政権が迷走しています。公約実現の財源確保を最優先し、実情を無視して多くの事業を「無駄」としたことに、地方自治体や学術・教育・医療など各方面から厳しい批判が出ています。また、郵政事業への官僚出身者の起用や財務省主導の事業仕分けなど、「脱官僚」の掛け声と裏腹な態度が見られ、普天間基地移設問題では日米関係が悪化しています。さらには、鳩山総理と小沢幹事長の「政治と金」の問題があっても、一切の党内批判を許さない党の体質にも問題があります。これらは国民が望んだことでしょうか？

しかし、自民党への支持も回復していません。民主党の敵失に期待し、下野した原因を外に探して自らを省みなければ、自民党は壊滅するでしょう。私は、自民党結党の精神こそ日本の建て直しに繋がると確信しています。先輩方の努力の上にある我々の世代が、その恩返しも含めて、再び多くの国民に支持される自民党を創り上げるために全力で頑張っていく決意です。



**本年も大変お世話になりました、ありがとうございます。**  
**寒さが厳しくなりますが、くれぐれもご自愛のうえ、どうぞ良いお年をお迎えください。**

# 12月9日本会議質問

本会議での質問の様子は、本会議HPでもご覧いただけます。  
http://www.pref.kyoto.jp/gikai/

## 民主党政権の方針に対する京都府の対応について

(二ノ湯) 民主党のマニフェストの5大原則の1つに「中央集権から地域主権へ」とあったが、政権発足後は、地方自治体や地元関係者との協議もなく、公共事業の凍結、「こども手当」の財源の地方負担の要求、事業仕分けによる地方関連予算の縮減・廃止や地方交付税の抜本的な見直し等の判定が続くなど、地方軽視の姿勢が伺える。知事も記者会見で「交付税の問題など影響は大きい」と述べられたが、政府に対して具体的にどう対応するのか？

(山田知事) マニフェストや予算の概算要求は、地方に影響が大きい。交付税増額や国直轄事業負担金・扶養控除・児童手当での廃止等は、地方の税収増と負担軽減になるが、ガソリンの暫定税率の廃止や子ども手当・高校教育無償化などに地方負担が求められるれば、税収減や負担増となる。これらについて、知事会などで「地域主権」を軸に地方の考えをまとめて、政府に伝えている。今年、予算の概算要求から編成までの期間が短く、事業仕分けの扱いなど不透明な部分も多いが、「地方の元気がなくして国の再生なし」の立場で、政府に要望を続ける。

## 林業の活性化について

(二ノ湯) 京都府は、府内の人工林のうち約8万1千haを林業で整備する「木材生産型森林」と指定したが、林業経営が厳しい中、その実現には、生産・流通・加工・消費の各段階での合理化と、公的支援の拡大が不可欠だ。そして、府内産材の末端価格を外材や他府県産材と比べて妥当なものにしないと消費が増えず、林業は成立しない。林業活性化のために、生産から消費までを見通した総合的な戦略が不可欠だ。

(今西農林水産部長) 木材生産型森林では、平成24年までに1万7千haの間伐を行い、路網整備や高性能林業機械の導入を通じて、間伐材供給量を平成19年度の2万9千haから5万haに引き上



(山下商工労働観光部長) 京都には、自然と調和した暮らし、それを支える伝統産業、大学・研究機関・企業などの集積がある。そこで、各界が連携して「京都産業エコ推進機構」を設立し、全産業のエコ化やエコ産業創出を目指している。具体的には、京都産材や伝統・先端技術を結集したエコ住宅の開発、京都エコスタイル製品認定事業、中国等への環境貢献・市場開拓などをしてきた。今後も、環境の世紀のライフスタイルのモデルとなるべくエコ産業の創出に取り組む。

## 日本的な環境産業の創出について

(二ノ湯) 日本人が環境保全に秀でている本質は、自然に感謝し、感動し、山や巨木を神様として祭るような感性や世界観と、それが育んだ「自然と調和したライフスタイル」である。今、大自然の循環の作用に学びながら、テクノロジーを駆使して、究極のエコな社会を築こうとする「ネイチャーテクノロジー」が成立しつつある。日本文化の集積地である京都こそ、そうした取り組みを進めるべきではないか？

## お困りごとなど「相談ください」

皆様にとって、行政の仕事の役割分担は分かりにくいものですか？ここに相談に行けばいいのかわかりませんか？私の事務所まで、お気軽にお問い合わせください。



## 「自由民主党 京都府連」 ◎時局講演会のお知らせ

～国の姿と安全、地域の活力をめざして～

と き・平成22年2月6日(土) 午後1時30分開会  
と ころ・国立京都国際会館 メインホール (大会議場)  
講 師・森田 実先生 (政治評論家)  
増田寛也先生 (元総務大臣)  
会 費・10,000円  
是非ご参加ください。  
お問い合わせは、ニノ湯しんじ事務所まで

この催し物は、政治資金規正法 第8条の2に規定する政治資金パーティーです。

ホームページもご覧下さい!  
URL: www.ninoyu.net

ニノ湯しんじ 検索

◆インターネットラジオ放送で、「ラヂオしんじ」の配信を始めました。

〈色々な形で活動をお伝えします。皆様からもご意見やご感想をお願い致します。〉



平成19年4月の京都府議会議員選挙で、私は「今こそ、伝統が未来を拓く」のスローガンのもと、大きく3つのことを実現していきたいと訴えました。選挙から2年8ヶ月以上を経た今、今までの取組みを総括し、残りの任期の活動につなげていきたいと思えます。

## 自然とより深く 関わりあう 暮らしの実現

「感謝」「謙虚」が薄れた風潮や環境問題の深刻化は、自然の恩恵を感じにくい生活スタイルになったことが大きな原因であるとの問題意識を持っています。

### ◆農林漁業の活性化

(仕事として自然に向き合う)

自然と向き合う仕事を増やすことができないか、その観点から農林漁業の視察を重ね、自ら体験もしながら、模索してきました。現在は、農林環境常任委員会に所属し、活動中。



### ◆都市農村交流の活性化

(生活の一部に自然と触れ合う時間を)

都市住民が自然に触れ合うことが大切と考え、都市農村交流を推進しています。京北での農作業を立命館大学の学生サークルが手伝う道筋をつけ、私も「京北の自然を学び・楽しむ集い」を行いました。



<京北の丹波広域基幹林道>

### ◆今後の方針

- 将来の農林水産業に希望が持て、若い新規就業者が増えるような取組み。
- 貴重な都市域の農地を「みんなの財産」として守る取組み。
- 都市住民が農山村の振興に参加できる取組み。

## 住民がみんな 支える地域づくり

幸せの基礎には、安定した家庭と地域社会での絆があるべきだと考えています。

### ◆今ある絆を強くする

(既存の地域団体の強化)

人が繋がっており、必要とされている実感が幸せの基礎だと考えます。東京帰りの私自身、多くの地域の行事に参加し、それを実感しています。京都の絆は強いですが、若い世代を中心に地域への参加が減ってきているのが現実で、そのため、私も府議会で主張しましたが、京都では自治会への加入を促す条例を検討しているようです。



### ◆新たな絆を作っていく

(何かの取組みで人が集まる)

核家族化や地域の絆の希薄化で、行政やNPOなどに「子育て」に関する取組みが増えました。その行事やサークルなどの活動が、新たな絆作りの場となっています。ピンチをチャンスに変える発想が大事です。私は、地域資源を観光地図にする取組み等を通じて、地域活性化と絆の強化に取り組みんでいます。



「京都フリーウォーク」というHPに掲載されている「太秦」の地図。

### ◆今後の方針

- 高齢社会や災害への備えとして不可欠な各種地域団体との連携強化。
- 各地の顔の見える隣近所を復活させている取組みに習い、地元を紹介する。
- 「子ども」「環境」「農作業」を切り口として、若者が参加しやすい新たな絆作りの取組み。

## 人としてのあり方を 見つめ直す

集団の中での義務を果たさず個人の権利を主張する風潮や、親子・友人の殺し合い、若年層の凶悪犯罪などに問題意識を持っています。

### ◆学校教育

色々な小学校・中学校・高校への視察を重ねました。学力の充実のみならず、高い規範意識をもって社会に貢献できる人間の育成が大事だと考え、委員会や本会議質問でも「故郷への理解や愛着を深める教育の充実」を主張しています。



### ◆基本は家庭や地域社会

子どもを授かって、子どもの育ちにおける親・家庭の大切さを改めて痛感し、自らもできるだけ育児に参加しようと努めています。また、核家族化が拡大する現代では、改めて地域社会の助けも重要だと感じています。また、大学生の社会勉強の場になればと、インターン生を受け入れています。



<林業体験をするインターン生達>

### ◆今後の方針

- 幼稚園・保育園・子育てサロンなどから塾・地域スポーツ活動なども含めて、生まれてから社会人になるまでの育ちの場を幅広く調査継続。
- 実利を求める風潮に対して人として大事なものを学べる環境の整備。
- チャレンジ・実践や自然体験を育ちの場に多く取り入れる取組み。